

2024 年 4 月のブルーベリー農園その 2

農園の周囲のサクラはまだ散らずに咲いている。安芸区の自宅から東広島市豊栄町のブルーベリー農園に通ってブルーベリー栽培を続

けている。農作業は昨年 12 月からブルーベリーの剪定が中心。冬の寒さを乗り越えてブルーベリーの葉が出てきて、花の蕾も次第に膨らみ開花まであと少し。気温は 24 度くらいに上がる日もあって肩にさす日の光が暑い。



4 月 9 日 (火)

ブルーベリーの剪定を続けている。結局 2 本だけになってしまったブルーベリーの木。



4/12 ブルーベリーの剪定と同時進行で枝を野焼きしている。その煙の中に満開のツバキが咲く。



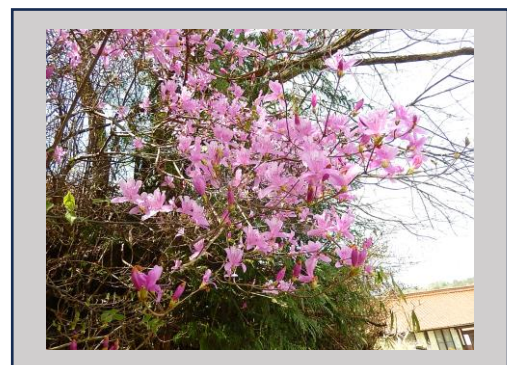
4 月 12 日 (金)

少し小高い里山のブルーベリー園から見える田んぼにはもう水が張られている場所もある。



4 月 14 日 (土)

一番下のブルーベリー畑の剪定が終了。隣の真ん中の段のブルーベリーは剪定していないのでさもさと枝が広く高く茂っている。





剪定したブルーベリー畑の地べたには昨秋種をまいたクローバーやレンゲが、4月に入って葉がどんどん伸びてきている。金子みすずの「土と草」でこんな風に詩を書いている。「母さん知らぬ/草の子を、/なん千万の/草の子を、/土はひとりて/育てます。/草があおあお/茂ったら、/土はかくれて/しまうのに。」この詩のとおりクローバーの周りの土はもう見えない。作者のいう母さんとは土のことだろうか。

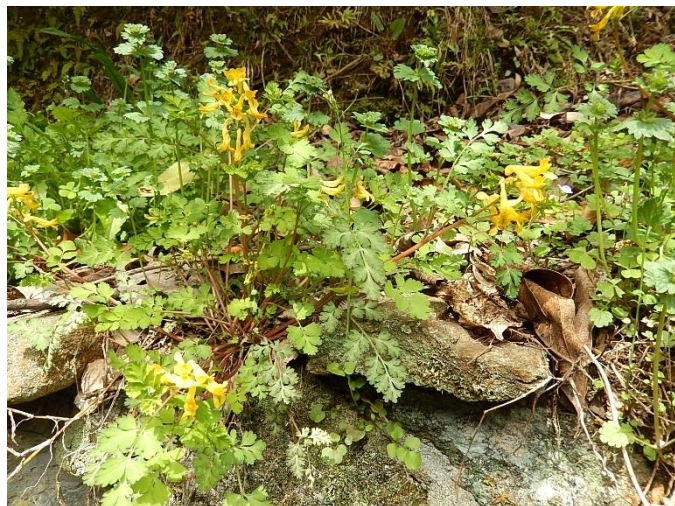


地べたに咲く野の花

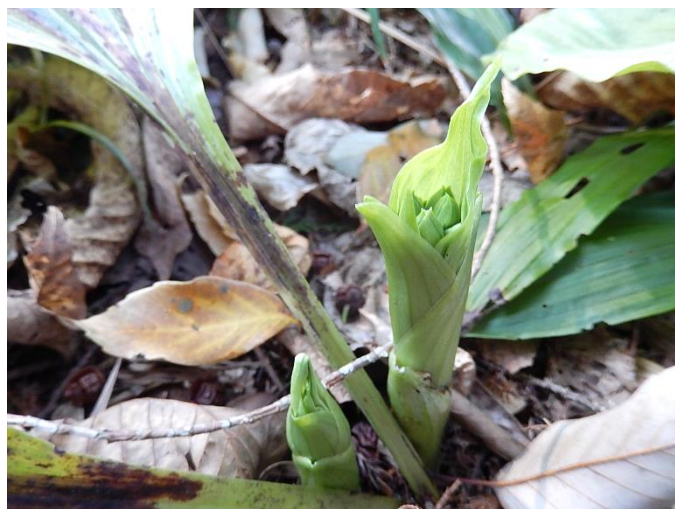
① ノボロギクの綿帽子



② レンゲの花



③ 石垣にはキケマン



④ 里山にはエビネの花芽から花軸が顔を出す。



⑤ アマガエルも土から出てきた。

2024年4月15日
社会福祉法人安芸の郷
理事長 遊川和良

《2024年4月15日の「新・ヒロシマの心を世界に」のブログに掲載したものに写真を加えて編集しなおしています》